



「第二次日本経穴委員会」便り

～第33回 国際標準部位の出版前夜～

第二次日本経穴委員会・作業部会委員 かとりとしみつ
香取俊光

現在、作業部会は、本年3月31日のお茶の水女子大学での報告会を終え、本年夏～秋のWHO版・日本語版の標準経穴部位の出版に向け奮闘中です。読者の中には「標準部位が早く公表されないかなあ」「出版が遅いなあ」と思っている人もいますかと思えます。本委員会は、そんな皆様の見えない重圧を感じながら、現在、出版直前の産みの苦しみの中にいます。

経穴部位本文の最終点検

昨年のつくば会議の結果、経穴部位が確定しましたが、日本語訳やイラスト作成などの作業の中で、表記の揺れやケアレスミス、言い回しの不備などについて点検してきました。

その結果をWPROや中国・韓国に問い合わせ、回答が返ってきました。それに対し、6月3日に作業部会が開かれ、日本の最終意見がまとまり再度返送しましたので、これで近日中に本文が確定される予定です。

経穴部位とイラスト

現在は、イラストの原図が完成し、個々に経穴を特定する作業が進行している状況です。絵心のある河原委員が原図をフリーハンドで示して見事に解決したシーンもありました。読者の皆様がこれを読む頃は、各委員が最終チェック

をしている最中か、終わって一安心している時期かと思えます。

基本の構想は、一穴に一図、取穴するのに必要な関連の経穴、本文や注に出てくる当該経穴以外の他の経穴を付加することにしました。二論併記の場合は、2穴を一図に示します。付加した参考となる経穴の表記の工夫も現在、検討しているところです。

部位の特定については、理解しているつもりでもいざ実際にツボを入れてみると、イメージと違うなど、部位確定が難しいケースもあります。委員の叡智で、より正確なものに仕上げていきたいと思えます。

今後の課題の一つとしては、奇穴（阿是穴）や新穴の部位が全然検討されていないことです。浦山委員が心配顔で「大丈夫かなあ」とつぶやいていました。

データの保存と提供

第一次経穴委員会の成果は『経穴集成』(1987)、『標準経穴学』(医歯薬出版、1989年)として世に出ました。この出版に危機感を抱いた中国が、その後は古典のデータ・ベースを作るなどして経穴学の進歩に努力していったとのことです。

第二次日本経穴委員会も、2003年の発足以来の検討の資料を、小林委員を中心に整理してき

ました。なぜそのツボが、その部位に決まったのか、私たちの苦悩や考えてきた経緯が後世に伝わるように出版の準備も行われています。今回も『標準経穴学』の第2版に当たるような書籍の出版が検討されようとしています。

教科書編纂への課題

筆者は理教連の経穴学の担当編纂委員です。WHO版・日本語版標準経穴部位の出版後の教科書の行方が気になっています。第二次日本経穴委員会と東洋療法学校協会、理教連のトップ会談も行われ、協力して新しい教科書の編纂が行われようとしています。

日本語版の標準経穴部位の出版に当たっては、拡大版・点字版の出版も提案されています。視覚障害者の方もお買い求めください。

(1) 経穴名の統一

視覚障害者にとって音は大事な情報源です。経穴部位が国際標準化されたのを契機に、経穴名の統一は標準化の重要なポイントの一つとして、本委員会でも、経穴の日本語での読み方を整理する必要性が論議されてきました。以下は、筆者なりにまとめたものです。混乱を覚悟して大幅な変更を行うのか、これまでのものをある程度継承して小幅な変更にとどめるのか、議論はまだ深まっていますが、問題提起だけしておきましょう。今後の読み方を統一していくなれば、経穴部位の標準化の、この時期にしなくてはならないのではないのでしょうか。

①読み名が変化している経穴

- ・膵膠 (小腸) 「かんりょう」と「けんりょう」
- ・或中 (腎) は「いくちゅう」か「わくちゅう」
- ・中渚 (三焦) は「ちゅうしょ」か「ちゅうちよ」

②同じ漢字であるが、読み名が違う経穴

・太、大をどう読むか…太淵 (肺)、太乙・大巨 (胃)、大都 (脾)、大赫 (腎)、大敦・太衝 (肝) など

・巨をどう読むか…巨骨 (大腸)、巨膠・上巨虚・下巨虚 (胃)、巨闕 (任脈)

・下をどう読むか…下廉 (大腸)、下関・下巨虚 (胃)、下膠 (膀胱)、下腕 (任脈)

・外をどう読むか…外陵 (胃)、外関 (三焦)

③音が日本語的になった経穴

背部兪穴 (膀胱)、肩中兪・肩外兪 (小腸)、胃兪 (腎) などの「兪」は、本来「しゅ」と読むべきところが、江戸時代から混乱して、明治期には「ゆ」と読むようになりました。

(2) 正字の使い分け

正字は、これまでは部位が確定していなかったために教科書には採用されてきませんでした。教科書には列缺・缺盆などは使われてきましたが、俠白・偏歷・温溜などは正字を使ってきませんでした。これを使うのか、使うなら国家試験にはどうするのかなどが、検討課題となっている部分です。教科書に記載して、その後の運用をどうするかも問題です。

(3) 経穴名コードの運用

肺経の中府のコードは「LU1」です。日本の鍼灸が世界に認められていくには、教科書にコードを入れ、極論かもしれませんが、国家試験にも出題しなくては汎用されないのかもしれませんが、世界で鍼灸が発展・展開している中で、日本の鍼灸が立ち遅れないように、大いに論議が交わされる必要があると思います。

(〒371-0805 群馬県前橋市南町4-5-1

群馬県立盲学校)